

いよいよ黒潮博

見よう！「南国みどり館」

3月20日～5月13日

高知空港のジェット化を記念して開かれる「84高知・黒潮博覧会」——地方都市の未来を考えるビッグ・イベントが、三月二十日からいよいよオープンします。本市主催の「南国みどり館」も準備が進み、皆様のご来場を待たばかりとなっています。ぜひご家族で行って、見て、楽しんでください。

青空が見える エアドーム

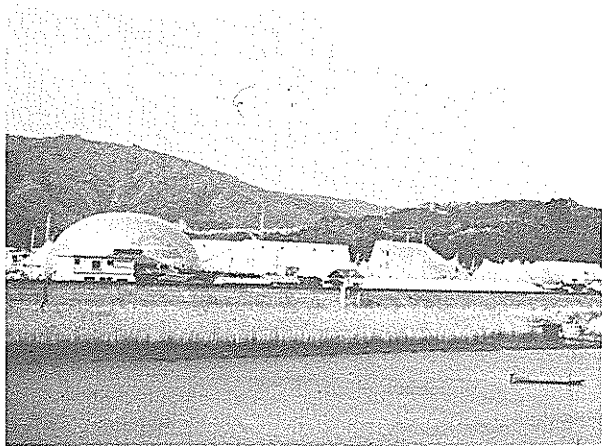
南国みどり館は、透明のフィルムとメッシュのネットが一体となったものを空気で膨らませた、形のおもしろいエアドームでできています。鉄やセメントなどは基礎以外には使わず、少ない材料で大きな空間をつくる省資源建造物です。

館内から青空が見え（未来農業コーナー）、太陽がふんだんに利用できるエアドームは、新しい農業を表現する展示館にふさわしいものです。

古代から 現代、未来へ

館内は、古代→現代→未来という三つの大きなコーナーで構成。それぞれのコーナーには説明パネルとインフォメーションカウンタ

農業の歩み——その未来 エアドームの中に弥生時代から21世紀まで



細部の仕上げが急ピッチの各パビリオン

感動を呼ぶことでしょう。

現代農業コーナー

古代農耕コーナーから現代の農業コーナーへ移る所に、農具から農業機械の移り変わりを見せ、日本農業の夜明けを表現します。

そして、トラクター、直播機、コンバインなど、土づくりから収穫までの最新鋭の農業機械を展示。ここまで進歩した現在の農業を紹介いたします。

未来農業コーナー

この未来農業コーナーは、園芸王国南国市が未来をしっかりと見定めるための、大きな提案といえます。

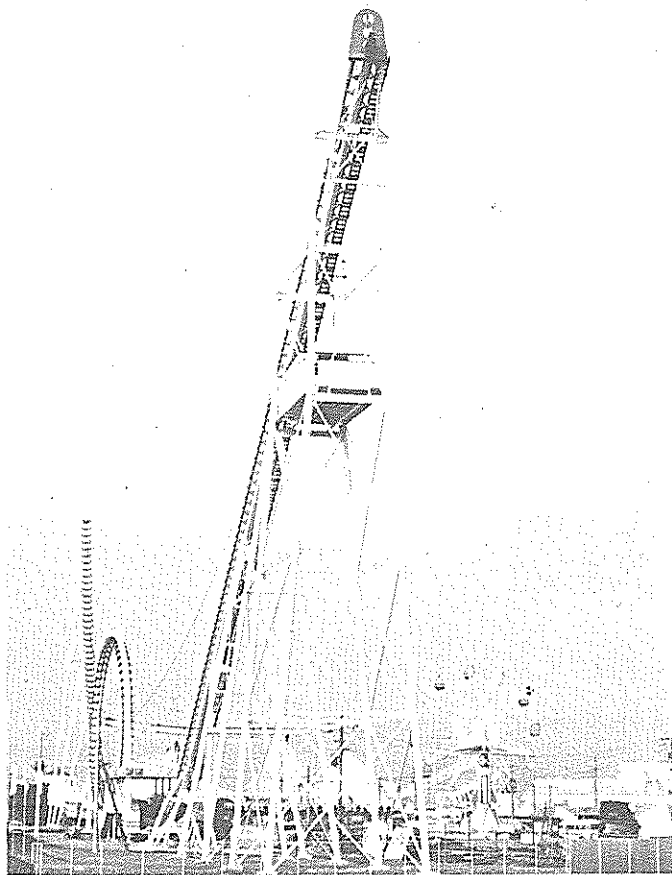
未来の農業を考える「南国みどり館」のメインコーナーです。未来の農業と食生活のために研究開発されたM式水耕栽培の植物が、空間いっぱい広がっています。トマト、キュウリなどの立体栽培をはじめとした、土をいっさい使わない、水と太陽を利用したM式水耕栽培のすべてを実際に見ることができま。

一を設け、農業の変遷と未来を一般の方々にもわかりやすく紹介しています。

古代農耕コーナー

南国市は「土佐のまほろば」といわれ、農業の発祥地ともいわれています。

このコーナーでは、高さ四メートルある古代の高床式穀物庫や古代人の足跡などを復元し、田村遺跡の出土品や古い農具を展示します。古代の人々の農耕生活を語る、これらの貴重な展示品は、見学者の

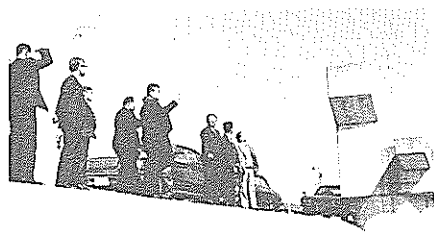


空高くそびえる「回転ジェットコースター」、子どもたちの人気を集めそうなプレイランド

柱が一本もないエアドームの「南国みどり館」



旧軌道跡を視察 阿佐線対策調査特別委



橋台が建つ物部川を視察する委員

他、小笠原市長も参加。まず、接続地点として予定されている土電後免町駅周辺から、旧土電安芸線に沿って旧日章駅、橋脚が建つ物部川まで現地視察をしました。それによると、旧軌道跡地がそのまま空地として残っているところもあるものの、周辺はかなり住宅が建て混んできたことが確認されました。

その後、市役所で執行部も加わり委員会を開き、その中で、同日午後には開かれる県主催の「阿佐線建設問題協議会」への参加について討議が集中。委員の中から「すべての市町村の意志がまとまった時点で協議するのが当然ではないか。今日の会は建設促進の協議会であり、見切り発車ではないか」「すでに加入を決定している十三市町村との同時発車は疑問だ。本市はまだ調査の段階だ」など厳しい意見や、「まだ県の具体的な方針もはっきりしないので、今は県の出方を見るべきだ」「会に参加して、他の市町村の意見も聞く必要がある」など、積極的な議論がかわされました。

阿佐線建設のための第三セクター加入で、協議を続けている市議会の阿佐線対策調査特別委員会（高島邦明委員長ら委員十二人）が二月二十七日、計画ルートの実地調査を行いました。この日は、十二人の委員全員が

結局、特別委員会としては、今後市民の意見も聞きながら、赤字の負担など細かな問題点についてさらに精力的な調査を進めていくことで意見が一致し、会を終りました。